



雪たねニュース

北海道版 No.282

今月の主な目次

- 牧草品種の紹介と冬枯れ草地への追播
- 北海道向けサイレージ用トウモロコシの紹介
- 周産期病と乳牛の飼養管理
- 平成13年産粗飼料の傾向

時の話題

地球温暖化防止への国際的約束

昨年十一月、モロッコのマラケッシュでの第七回地球温暖化防止に関する国際会議で、二酸化炭素やメタンなど温室効果ガスの排出削減を義務付ける詳細ルールが最終合意をみた(最大排出の米国は不参加)。二〇〇八年～二〇一二年の五年間の年間平均排出量を一九九〇年比で、日本は六%、EUは八%の削減が求められている。日本政府は、二〇〇八年までを国内対策試行期間とし、その対策大綱では、減少分として省エネ二・六%、森林吸収三・七%、排出権取引等で一・八%の計八%増加分として温室効果の高い代替フロン利用に伴う二%を見込んでいる。前述の排出権取引とは、削減割当量を使い切らず余った場合は、その余り分を他国に売ることができ、反対に削減目標を達成できない国は、他国より排出権を買って基準を満たすことが可能で、ここに温暖化ビジネスが出現し、英国では二〇〇四年、EUでは二〇〇五年より排出権取引市場を創設する方針である。

一方、削減目標を減少させられない場合は、環境にやさしいプロジェクトに取り組むことによって、排出権を獲得してこの基準を満たすことが認められている。

農業・畜産の分野でも、世界のさまざまな地域で取り組まれている排出削減プロジェクトを二つ紹介しよう(ニューズウィーク誌)。

一つ目は、地球にやさしい畜産……牛や羊の暖気には、温室効果ガスのメタンが含まれており、これの発生量を抑える飼料の研究、排せつ物からのエネルギー化、発酵残渣の肥料化等である。

ちなみに、成牛一頭一日当たりの暖気によるメタンの放出量はとりかたにもよるが、全乳牛平均一八〇ℓで、現在、北海道には乳牛が八五万頭強飼養されているので、大雑把であるが、掛け算で一日一億五千万ℓのメタンガス放出がある。これは札幌ドームに換算すると一〇日で一杯分、年間三七杯分の勘定になる。

二つ目は、新しい農法の開発……土を耕すと空中に二酸化炭素が放出される。新しい農法が開発されれば、二酸化炭素の放出量を減らせるかもしれない。

地球温暖化の影響がすでに生命を脅かしている主張(異常高潮、ハリケーン高頻度発生、サンゴ礁死滅による嵐への防御崩壊、漁獲量の激減等)に真剣に対処し、私たちのこの地球号を、どのようにして守り永続させられるかが問われている。

(酪農総合研究所 事務局長 高田 博文)